

東京海洋大学「海の日」記念行事

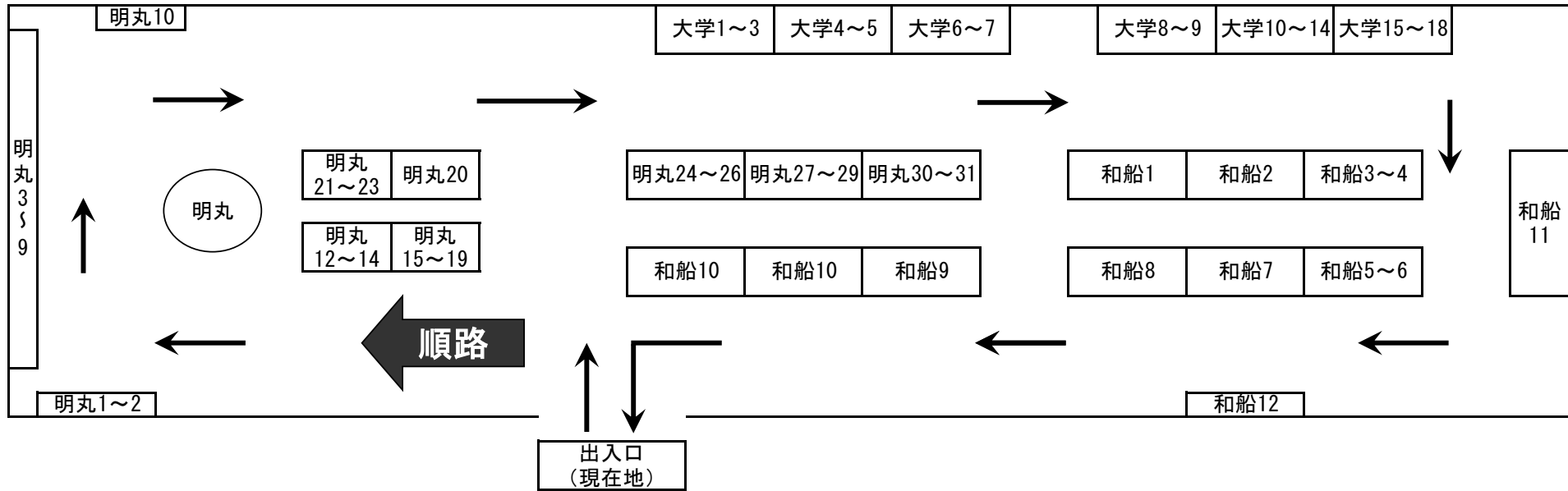
明治丸所蔵資料等他公開 展示目録



■日時:2009年7月20日(月・祝) 10:00~16:00

■場所:越中島キャンパス 越中島会館 2階 特別展示室

特別展示室 展示配置図



展示リスト (簡略)

展示番号	資料名等
明丸 1	建造当時の図面1 (写)
明丸 2	建造当時の図面2 (写)
明丸 3	建造当時の図面3 (写)
明丸 4	明治丸函館入港の写真
明丸 5	錦絵「函館港烟花展覧図」
明丸 6	明治丸航走の絵
明丸 7	写真：第四代練習船明治丸
明丸 8	商船学校移管当時の図面1 (写)
明丸 9	商船学校移管当時の図面2 (写)
明丸 10	肖像写真：Captain Albert Richard Brown
明丸 11	明治丸模型
明丸 12	灯台巡回船建造二関スル伺 (写)
明丸 13	灯台巡回船発注三関スル伺 (写)
明丸 14	明治丸当初計画図 (写)
明丸 15	御召船当時の明治丸 (写)
明丸 16	明治丸回航指令書 (写)
明丸 17	明治丸横浜着港届 (写)
明丸 18	船体部検査報告書 (写)
明丸 19	中央断面図 (写)
明丸 20	明治丸対馬出動に関する大久保利通書簡 (写)
明丸 21	明治丸史
明丸 22	明治丸の風見
明丸 23	重要文化財指定書 (写)

展示番号	資料名等
明丸 24	帆前操練 (明治丸) 教科書
明丸 25	明治丸操帆実習用動素配置図 (写)
明丸 26	明治丸部署
明丸 27	煙草盆セット
明丸 28	食器 (皿、ナイフ、フォーク)
明丸 29	CLOCHER クロツシエ
明丸 30	灯明
明丸 31	明治天皇御座所寝室板絵の一部

展示番号	資料名等
和船 1	和漢船用集
和船 2	和漢三才図会
和船 3	漂流記
和船 4	大日本土佐國漁師漂流記
和船 5	和磁石 ("逆針" さかばり)
和船 6	蒸気船之図
和船 7	倭寇圖巻 (複製版)
和船 8	船遮起
和船 9	寶船集
和船 10	引札 (各種展示)
和船 11	和船 (模型)
和船 12	英吉利船図

展示番号	資料名等
大学 1	商船学校記録 (明治8年)
大学 2	商船学校記録 (明治9年)
大学 3	商船学校記録 (明治11年)
大学 4	商船学校記録 (明治12・13年)
大学 5	東京府 私学書類 (三菱商船学校設立関係) 写
大学 6	商船学校沿革略誌
大学 7	商船学校記録 (明治14年)
大学 8	第一回 (明治8年) 入学試験問題
大学 9	入学試験問題 (大正7年4月)
大学 10	東京高等商船学校写真帳
大学 11	東京高等商船学校練習船修業日誌
大学 12	東京高等商船学校修業日誌
大学 13	翔鷹 (練習船大成丸第8次遠洋航海写真帳)
大学 14	練習船大成丸第8次遠洋航海報告
大学 15	商船学校写真帖 (N71 卒業記念)
大学 16	学習ノート
大学 17	校内競技大会優勝メダル (賀田秀夫18ヶ入1組)
大学 18	越中島の面影 (N100 卒業記念)

明治丸所蔵資料

展示番号	資料名等 / 著者	解説等	製作等年月
明丸 1	建造当時の図面1 (写)	建造当時の明治丸側面図	
明丸 2	建造当時の図面2 (写)	建造当時の明治丸平面図	昭和57年調製 [1982]
明丸 3	建造当時の図面3 (写)	建造当時の明治丸側面図	昭和57年調製 [1982]
明丸 4	明治丸函館入港の写真	明治9年7月18日、明治天皇を御乗座させた明治丸函館入港時の写真	明治9年 [1876]
明丸 5	錦絵「函館港烟花展覧図」 / 三代目歌川広重	明治9年7月16日～18日、函館碇泊中の明治丸の錦絵。三代目歌川広重によるもの。	明治9年 [1876]
明丸 6	明治丸航走の絵 / 飯塚幹児画	海洋画家として著名な飯塚幹児画伯が昭和25年海洋協会主催の海洋画展に出品した作品である。その後本学が寄贈を受けた。	昭和25年 [1950]
明丸 7	写真 : 第四代練習船明治丸	明治丸は機関出力不十分のため、燈台局より譲渡され、学生の帆船練習船となる。使用期間 : 明治29年7月～昭和29年2月	
明丸 8	商船学校移管当時の図面1 (写)	商船学校移管当時の明治丸側面図	
明丸 9	商船学校移管当時の図面2 (写)	商船学校移管当時の明治丸竣工平面図	昭和58年調製 [1983]
明丸10	肖像写真 : Captain Albert Richard Brown	明治丸建造・受取に従事し、黎明期の日本海運の形成に寄与した人物。	
明丸11	明治丸模型	建造当時の明治丸模型	
明丸12	灯台巡回船建造二関スル伺 (写)	明治6年3月7日付で工部大輔山尾庸三から正院（太政官制における政治の中枢的最高機関）宛に提出した建造伺書。（国立公文書館所蔵）	明治6年3月 [1873]
明丸13	灯台巡回船発注二関スル伺 (写)	最初に建造伺を出し決裁されてから、約9か月後の明治6年12月5日に提出された発注と予算措置の伺書。（国立公文書館所蔵）	明治6年12月 [1873]
明丸14	明治丸当初計画図 (写)	建造伺書（明治6年3月7日付）に添付されていた図面。（国立公文書館所蔵）	明治6年3月 [1873]
明丸15	御召船当時の明治丸 (写)	平面図	
明丸16	明治丸回航指令書 (写)	伊藤工部卿（伊藤博文）が燈台寮雇イギリス人ブラウンに詳細な指示をつけて明治丸を横浜へ回航することを指令した書簡。（国立公文書館所蔵）	明治7年 [1874]
明丸17	明治丸横浜着港届 (写)	かねてイギリスに注文して建造していた燈台巡回用蒸気船（明治丸）が完成し、明治8年2月20日横浜に着港した旨の届書。（国立公文書館所蔵）	明治8年 [1875]

明治丸所蔵資料

展示番号	資料名等 / 著者	解説等	製作等年月
明丸18	船体部検査報告書（写） / ロイド船級協会	ロイド船級協会の明治丸における検査報告書。（A. R. ブラウン・マックファレン社寄贈）	明治7年 [1874]
明丸19	中央断面図（写） / ロイド船級協会	24分の1の縮尺を用いた中央断面図で、製造番号ほか明治丸と明記されており、1874年3月3日付でロイド船級協会の承認を受けている。（A. R. ブラウン・マックファレン社寄贈）	明治7年 [1874]
明丸20	明治丸対馬出動に関する大久保利通書簡（写）	黒田清隆の要請により、対馬への石炭急送のため明治丸が派遣された経緯が書かれた大久保利通から伊藤博文宛の書簡。（国立国会図書館所蔵）	
明丸21	明治丸史 / 明治丸史編集部会	建造から重要文化財指定を受けるまでの歴史を編纂。	昭和57年7月 [1982]
明丸22	明治丸の風見	三本のマストの頂上にある風見の一つ。平成15年3月25日新替したロイヤルヤードを取付ける作業中に腐食部からマストが折れたので、一時はずして保管中のもの。	
明丸23	重要文化財指定書（写）	昭和53年5月31日「三檣バーク型帆船」として、重要文化財の指定を受けたときの指定書。この指定は、船舶として重要文化財の嚆矢であった。（百周年記念資料館所蔵）	
明丸24	帆前操練（明治丸） 教科書		[大正末期]
明丸25	明治丸操帆実習用動索配置図（写）	航海科第107期生伊吹秀雄氏より寄贈	
明丸26	明治丸部署 / 奥洞元次郎著	総員部署及び各種操帆部署表。商船学校発行。	明治39年 [1906]
明丸27	煙草盆セット	明治丸建造時船内で使われたもの	明治7年 [1874]
明丸28	食器（皿、ナイフ、フォーク）	明治丸建造時船内で使われたもの	明治7年 [1874]
明丸29	CLOCHER クロッシェ	仏語。明治丸建造時に整えられた什器で皿と同じ明治丸のマークがついている。	明治7年 [1874]
明丸30	灯明	明治丸で使用されたもの。照明器具と思われる。	
明丸31	明治天皇御座所寝室板絵の一部	明治丸船内御座所寝室に描かれた板絵の一部	明治7年 [1874]

和船資料

展示番号	資料名等 / 著者等	刊行年	刊又写	解説
和船 1	和漢船用集	明和3年 [1766]	刊	<p>大阪の船匠金沢兼光が著述刊行した和漢の船に関する十二巻の事典的大著。ただし漢（中国）の部は、『武備志』からの転載で、内容は和船が主である。1-2巻は舟の起源・丸号・造船儀礼・船玉神のことなどを記し、3-7巻は海船・川船・御座船・江湖船・獵船・軍船などに分類して古今の各種船舶を説明する中核部。8巻は詩歌にでる船、9巻は宝船などでさして重要ではないが、10-12の3巻は関船を主体に船体各部と舵・帆・綱具などの道具類といった実際面を克明に解説する。 （出典：『日本古典文学大事典』）</p>
和船 2	和漢三才図会 巻33車賀類 巻34船橋類	正徳2年 [1712]	刊	<p>105巻首1巻目1巻81冊。事典。寺島良安著。明の『三才図会』にならった、和漢にわたる図解百科事典。3部105部門に分ける。天部では天文、天象・暦占など、人部では人倫・親属・官位などのほか獣禽魚類の類、地部では土地・山水の類や、中国地誌、日本総地および国内各地の地誌、木菓草穀や造醸にまで及ぶ。各項につき、図解に続いて、漢名・和名・唐音等を挙げ、簡潔な解説を行っている。本資料巻33車賀類、巻34船橋類は、人部にある。 （出典：『国史大辞典』）</p>
和船 3	漂流記 / 播州彦蔵	文久3年 [1863]序	刊	<p>彦蔵は、天保7(1836)年播州濱田村に生まれた。 嘉永3(1850)年9月、上方へ航行中の栄力丸が大王崎で漂流、12月にアメリカ船オークランド号に救助され、サンフランシスコに着いた。 嘉永5(1852)年3月、軍艦セントメリー号に乗り、帰国の途についた。 しかし、香港まで来たが事情により、彦蔵と治作と亀蔵の3人は再び渡米し、嘉永6(1853)年6月サンフランシスコに着いた。 税関長サンダースの庇護のもと、アメリカで成人した。 安政6(1859)年、彦蔵はアメリカ領事ハリスの通訳官として帰国した。この後のことは、「アメリカ彦蔵自伝」に詳しい。 本書は漂流、アメリカでの生活、共和政治の由来、法律、訴訟制度、宗教及び教会、婚礼、祭日、遊戯、電信、汽車、鉄橋等の図解など、簡潔に要領よくまとめて紹介している。 普及度から見て、文明開化に先駆的役割をはたしたと言えよう。</p>

和船資料

展示番号	資料名等 / 著者等	刊行年	刊又写	解説
和船 4	大日本土佐國漁師 漂流記 / 鈍通子記録	[江戸末期]	刊	中浜万次郎 ジョン万次郎とも称す。文政11（1828）年土佐国幡多郡中ノ浜の漁師悦助の次男に生まれる。 天保12（1841）年正月5日西浜の伝藏ら4人と近海の漁に出て暴風のため太平洋を漂流、13日鳥島に漂着。 半年後、アメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救われ、ハワイで4人と別れ、船長ホイットフィールドと東海岸ニュー・ベッドフォードに上陸、フェアハイブンで小学教育を終了した。 ハワイに戻り、伝藏親子と帰国準備をし、嘉永4（1851）年正月琉球摩文仁間切に上陸、8月鹿児島に送られ、9月長崎で尋問を受け、嘉永5（1852）年6月土佐藩に引き渡され、10月中ノ浜に帰った。本書は、この漂流の記録である。 江戸時代に、漂流記を公刊することは憚られていたので、木版で刊行されたのは、「満次郎漂流記」、「ジョセフ彦蔵漂流記」、「南海紀聞」、「南瓢記」、「海外異聞」の5篇だけである。
和船 5	和磁石（“逆針” さかばり）	制作年不明		方位目盛は時計回りに「子、丑、寅、・・・」と十二支が刻まれているが（これを本針という）、この「逆針」は逆の反時計回りに刻まれている。使用方法は磁石の子・午（北・南）を船の船首尾船に合わせておけば、針の向く方向が船の進行方向になるというものである。
和船 6	蒸気船之図	書写年不明	写	「嘉永六年癸丑六月三日相州浦賀江到来ス」と記している。嘉永6年（1853年）は、アメリカ合衆国の海軍所属の東インド艦隊艦船が、江戸湾浦賀（神奈川県横須賀市浦賀）に来航した年と符合し、その時、書き写した異国船と思われる。
和船 7	倭寇圖卷(複製版)	昭和49年 [1974]	刊	倭寇の風俗を描写した絵画史料で現存するものはきわめてすくない。『倭寇圖卷』は、その点ではほとんど唯一と称してもよいもので、きわめて貴重な存在である。書肆文堂の手で、中国より日本にもたらされて東京大学の所有に帰し、関東大震災にも第二次大戦にも災厄をまぬがれたのである。旧題には「明仇十州台湾奏凱図」とある。明仇十州とは、明時代の著名な画家仇英のことで、十六世紀前半人物画に麗筆をふるった。しかし、この旧題はおそらく後人のつけたもので、筆者は仇英であるということも、場所が台湾であるということも、奏凱というもとも当を得ていないであろう。けれども画法の点からみれば、明末に成立した図巻であることは間違いないようである。 天地三二センチメートル、全長五二二センチメートルの長巻で、絹本着色の逸品である。画面は、倭寇船団の出現、上陸、形勢の観望、掠奪放火、明人の退避、倭寇と明官兵との接戦、勝報、明官兵の出撃、という順序で展開する。日本の絵巻にみられるような物語性をもった画面展開であるが、日本の絵巻の詞書に相当する部分はない。 （田中健夫著『『倭寇図巻』について』より）

和船資料

展示番号	資料名等 / 著者等	刊行年	刊又写	解説
和船 8	船廻起	[南北朝時代]	古写本	我が国船の起源に触れた珍しい資料である。現在、本資料以外の存在は確認されていない。文中には以下の4図がある。 第1図 垂仁天皇三年の船の起こりの象図 第2図 神武天皇乗御廻船 第3図 日本武尊東夷征伐之乗御船 第4図 神功皇后三韓征平之神教杉船 元奥書には白鳳八年(680)、承和五年(838)年、承安元年(1171)の年号がある。極状には「五百年程の保有を了知せられ」とある。慶応二年(1866)の五百年前は南北朝時代(1336-1392)にあたる。
和船 9	寶船集 / 井上和雄編	大正8年 [1919]	刊	あとがきに「知己廣瀬菊雄氏、年来寶船の図を蒐集して其の数今や半千近し、偶ま平和の新春を迎ふるに際し、聊か記念的にその図譜を公刊せむとて、図の選定及び解説の事を予(井上和雄)に委嘱せる」とあり。
和船 10	引札(各種展示)	各刊行年不明	刊	江戸時代以降、商店が開店や商品売出しを宣伝するために配るふだ。江戸時代初期までは「報条」「札まわし」「口上(書)」「目録(書)」などと呼ばれた。十八世紀中ごろ引札の語が生まれた。『近世風俗志』には、江戸では「引札」と呼ぶが、京坂では「ちらし」と呼んだと記されている。商店の宣伝が活発となる条件としては、城下町における商品販売が、武士を相手とするだけではなく、一般庶民をも対象とするようになったことがあげられる。十八世紀の江戸では、商品の広告文を文人に依頼したり、作品に引用してもらったりすることも行われた。平賀源内が歯みがき「嗽石香」の口上を作ったのは、明和六年(1769)であった。安永四年(1775)には「清水餅」の口上を作成している。以後、山東京伝・曲亭馬琴・式亭三馬・柳亭種彦・為永春水・烏亭焉馬なども各種の引札を作っている。明治以後も引札は盛んに利用され、近代の広告へ引き継がれていくのである。 (出典：『国史大辞典』)
和船 11	和船(模型)	制作年不明		小型の二丁櫓の和船模型。船の背骨に当たるキールや肋骨に当たるフレームが無く板で作られた箱の様なもので、東京湾の様な静かな海で使われた船である。
和船 12	英吉利船図	書写年不明	写	江戸末期に日本に来航したと思われるイギリス船の絵図

大学資料

展示番号	資料名等 / 著者	発行所	発行等年
大学 1	商船学校記録 (明治8年)	私立三菱商船学校	明治8年 [1875]
大学 2	商船学校記録 (明治9年)	私立三菱商船学校	明治9年 [1876]
大学 3	商船学校記録 (明治11年)	私立三菱商船学校	明治8年 [1875]
大学 4	商船学校記録 (明治12・13年)	私立三菱商船学校	明治12年-13年 [1879-1880]
大学 5	東京府. 私学書類 (三菱商船学校設立関係) 写		明治12年 [1879]
大学 6	商船学校沿革略誌	商船学校	大正5年5月 [1916]
大学 7	商船学校記録 (明治14年)	私立三菱商船学校	明治14年 [1881]
大学 8	第一回 (明治八年) 入学試験問題		明治8年 [1875]
大学 9	入学試験問題 (大正7年4月)	東京高等商船学校	大正7年4月 [1918]
大学 10	東京高等商船学校写真帳	東京高等商船学校	昭和11年11月 [1936]
大学 11	東京高等商船学校練習船修業日誌 / 北川次郎著		昭和6年-7年 [1931-1932]
大学 12	東京高等商船学校修業日誌 / 渡辺齊著		昭和20年 [1945]
大学 13	翔鵬 (練習船大成丸第8次遠洋航海写真帳)	商船学校	大正2年 [1913]
大学 14	練習船大成丸第8次遠洋航海報告	商船学校	明治45年-大正2年 [1912-1913]
大学 15	商船学校写真帖 (N71 卒業記念)	東京商船学校	大正6年 [1917]
大学 16	学習ノート: Engine management and boilers nautical college Tokyo / 藤井宏著		昭和2年-3年 [1927-1928]
大学 17	校内競技大会優勝メダル (賀田秀夫18ヶ入1組)		昭和2年5月 [1927]
大学 18	越中島の面影 (N100 卒業記念)	東京高等商船学校	昭和8年 [1933]